

I. 会長就任のご挨拶

日本内燃機関連合会
会長 米澤 克夫 *

このたび 2017 年 7 月 13 日開催の第 63 回通常総会におきまして、相馬和夫氏(三菱重工業(株) 顧問)の後任として、日本内燃機関連合会十二代目の会長に選任されました。当会のこれまでの歴史と伝統の重みを顧み、今後のグローバルな競争、環境規制の強化など厳しさを増してゆく内燃機関の将来展望を考えますと、その責任の重さを痛感しております。



環境規制への対応に加え、原油・ガス価格の変動、資源エネルギーの獲得競争の激化等、グローバルな課題への日本の取り組みがますます重要となり、様々なエネルギーを創出する内燃機関を取りまとめる当会の果たす役割はこれまで以上に重要になってきております。

このような中、内燃機関における国際協調と日本政府を含む各関係各省庁・各機関との連携を図り、内燃機関の明るい将来に向けた技術革新と研究開発を継続し、課題を解決し成果を出していくことが求められております。

ご存じのとおり、日本はこれまでも環境改善への取り組みを世界に先駆けて積極的に行っており、太陽光や風力等の自然エネルギーを利用した発電や燃料電池等、様々な新技術が既に実用化され、内燃機関の分野でも既存の液体燃料に加えガス燃料にも対応したデュアルフューエルエンジン、プロペラ効率を追求した低回転ロングストローク 2st エンジン、余剰排気ガスを使用したハイブリッド過給機発電システム、低公害化燃焼・燃料制御技術や排出ガス処理技術等の省エネ、環境負荷低減技術が開発・実用化されており、当会としても、これらの各分野における技術開発への取り組みを積極的に推進していきたいと思っております。

当会は、内燃機関工業の振興と技術の向上に寄与するため、次の 3 事業について活動を続けております。即ち、CIMAC 関係事業、標準化事業、及び技術普及・広報活動事業です。

CIMAC では、各国から有益な論文を発表し討論を行っております。2004 年に開催された京都大会においては私も大会事務局として運営参加し、全世界から一流の技術者が集い、レベルの高い議論が行われる場の重要性を痛感いたしました。引き続き、応募論文の国際審査会には往復動内燃機関とガスタービンの両部門から日本代表委員が出席すると共に、CIMAC WG にはそれぞれに対応する国内委員会を設け、国際会議に日本代表を派遣し重要課題の調査研究・基準審議等を行うなどにより、今後ますます精力的に活動していきたいと思っております。

標準化事業では、グローバル規格 ISO の ISO/TC70(往復動内燃機関)及び ISO/TC192(ガスタービン)の制定活動に協力し、各々、国内審議委員会を組織し、内燃機関に関する ISO 規格への国内意見を取りまとめた上で、ISO での審議立案を行っております。また、このグローバルな活動に対応して日本工業規格(JIS)の対応する部分の規格改正案作成のための調査・作成活動を行っております。

技術普及・広報活動事業については、最新関連技術の講演会を主催、機関紙としての「日内連情報」の刊行・配布、並びに CIMAC 関係資料及び国際会議等で入手される資料類などの最新技術動向の頒布を速やかに実施し、当会の活動状況及びその成果、並びに往復動内燃機関及びガスタービンに関する世界の最新情報及び国際情勢などを、会員の皆様及び関係者に広くお知らせしております。

この3つの事業を軸に、日本の内燃機関事業のますますの発展、重要性を増す日本の立場での発言力の強化を目指し、会員の皆様のお役に立つことができるよう尽力して参りますので、関係各位のご支援、ご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。